

インクジェットデジタル捺染機 Monna Lisa シリーズ “ML-8000 顔料インク” 導入企業レポート

EPSON



MASH Style Lab
CELFORD デザイナー
西川様

株式会社 浜田染工
代表取締役
浜田様

Monna Lisa 8000

MASH Style Lab 「CELFORD」から顔料プリントを使った製品がリリース！

Monna Lisa 顔料プリントで目指す新たなサステナブルの形



(株)マッシュスタイルラボは、ファッション・ビューティー・フード・デザイン・不動産など多岐にわたる事業を展開する「マッシュグループ」のファッション部門。「カーボン・ニュートラルの実現」および「人と社会に向けたウェルネスデザイン」を目標に掲げ、業界でいち早くリアルファアの廃止を実施したほか、リサイクル素材やオーガニック素材を使用した商品の拡充、店内の什器や内装にサステナブル素材を積極的に採用した店舗づくりの実施など、環境配慮

に前向きな取り組みを続けている。そんなマッシュスタイルラボが手がけるブランド「セルフォード」から、2024年のコレクションとして、顔料プリントを採用したブラウスが発表された。生地プリントに携わったのは、(株)浜田染工。1968年の創業以来、天然繊維から化学繊維まであらゆる染色を手がけてきた浜田染工は、レディースの服地を中心にオートスクリーン、染料・顔料インクジェットプリンターによる高品質な捺染技術を提供し続けている。また、2023年には

SDGs行動宣言を発行し、太陽光パネルの設置や、労働環境改善などサステナビリティにも積極的に取り組んでいる。今回は、アパレルブランドによる顔料プリントを使った商品開発という新たな試みをピックアップし、Monna Lisa顔料プリンターの使用感や業界の今後について、マッシュスタイルラボ セルフォードのデザイナー 西川様、浜田染工の代表取締役 浜田様のお二人に話をうかがった。



— Monna Lisa により顔料プリントの商品開発に至った経緯

(西川様) セルフォードのアンバサダーを務めていただいている滝川クリステルさんとのコラボレーション「for Christel Takigawa」という企画がきっかけです。滝川さんは世界自然保護基金「地球いきもの応援団」のメンバーであり、サステナビリティに対する意識の高い方で、今回の企画も環境保全に強くアプローチする方針となりました。業界の現状では、素材をサステナブルにすることで環境配慮に取り組むほか、負荷軽減を優先して染色やプリントをしない製品もあります。セルフォードでは環境に配慮しながらも、より自由にお洒落を楽しんでもらいたいという思いから、柄を取り入れた製品を作りたいと思っていたところ、展示会でMonna Lisaの顔料プリントに出会いました。このような経緯から顔料プリントの技術を持つ浜田染工さんにご協力いただき、製作に至りました。

(浜田様) 弊社では以前からデジタル捺染機を導入、稼働してきましたが、世界的に環境負荷低減へ意識がより高まっている現状から2023年にMonna Lisa ML-8000(顔料インク)を新たに導入しました。今回、マッシュスタイルラボさんから、サステナブルに特化した企画のお話をいただき、弊社にできることはないかと考えたときに、アパレルブランドにおける国内での顔料プリントを使った商品開発はこれまで前例がほとんどなかったこともあり、挑戦の意味を込めて顔料インクで製作しようということになりました。



株式会社 マッシュスタイルラボ

■ 企業データ

設立 : 1999年 / 資本金: 2,500万円 / 代表: 近藤 広幸
所在地 : 東京都千代田区麹町・東京都千代田区紀尾井町
URL : <https://www.ms-lab.com>

■ 事業内容 : 衣料品・雑貨等の企画・製造・販売



株式会社 浜田染工

■ 企業データ

創業 : 1968年 / 資本金: 2,000万円 / 代表: 浜田 智史
所在地 : 京都府城陽市平川広田
URL : <https://hamada-senko.co.jp>

■ 事業内容 : プリント服地の企画・製造

MASH Style Lab が顔料プリントを使った商品開発にかける、熱い想い

商社、工場も一体となって目指した「サステナブルを当たり前」

— 量産を終えての使用感やご感想



(西川様) これまで顔料プリントというと、いわゆるTシャツのような厚手の生地にはベタッとペンキのように硬いプリントが乗っているイメージがありましたが、今回仕上がったブラウスは生地も薄手で柔らかく、従来の顔料プリントでは見たことのない繊細な仕上がりになっています。発色についても、他のプリント手法と遜色がないほど綺麗で、細かい柄などディティールの再現性に驚きました。

特にこだわった点としては「風合い」です。同シリーズの無地2色には非常に薄く柔らかな生地を使っているのですが、初期のプリントサンプルでは風合いに差が出てしまいました。そこで、風合いを揃えるために、プリントする生地そのものを変更したり、仕上げの処理を再検討してもらうなど試行錯誤し、最終的には素材とプリントのバランスがとれ、堅牢度的にも安心できる生地が完成しました。

(浜田様) アパレルにおける顔料プリントを使った商品開発は、弊社でも初めての事例ということもあり、マッシュスタイルラボさんとは素材選びの段階から打ち合わせを重ねて作り上げていきました。薄手の生地に対するプリントは、インクの濃淡で摩擦による色移りなどの影響を受けたり、柔らかさを求めすぎると縫い目の糸が表面にひっくり返ってしまう、いわゆる糸返りが起きやすくなるといったハードルもあり、バランスが重要でした。今回の製作を通して、今一度時間をかけて追求したい課題も得られたと同時に、このような薄い生地に対するプリントを完成できたことは、今後の顔料プリントによる商品展開の広がりにつながると感じています。

— エプソンや Monna Lisa に期待すること

(西川様) 技術的に期待していることは、生地裏面への浸透率の向上です。リボンやフリルなど立体的で動きのある部分は生地の裏面も人目に触れるので、デザイナーとしてはこだわりたいポイントのひとつです。

また、今回の製作を通して顔料プリントのクオリティの高さやメリットを実感したので、使い続けられるようなコストに抑えられれば…というのが正直なところです。今後、アパレルでの顔料プリントを使った商品開発が普及し、弊社が目指す原価率に収まるようになれば、トライアル的なものではなくスタンダードな技術として顔料を選択できるようになると思います。

(浜田様) オートスクリーンなどの従来手法に比べ、デジタルプリントはスピードが速く効率的です。加えて、同じデジタルプリントでも顔料のメリットは、染料では不可欠な「蒸し」「洗い」といった後工程を行う必要がなく、時間短縮できるという点がやはり大きな魅力となっています。サンプルを作って確認いただくまでの工程がよりスムーズになりました。また、使用され

る水を約90%以上削減※でき、水資源保全の観点から環境配慮にもアプローチできるほか、品質管理しやすいという良さもあります。後工程でトラブルが起きてしまうとすべての生地が廃棄になってしまうので、そのリスクがなくなるというのはありがたいことです。

今後は、前処理のインラインができるようになれば良いという期待を持っています。そうすると染められる素材の幅が広がり、よりプリンターの性能を活かすことができると感じています。



— 今後の展望について

(西川様) 私自身、アパレル業界の抱える大量廃棄や環境負荷についての問題は気にしています。今回の企画では、サステナブルな商品をご提供するために、製作過程を見直し、生地選びやプリントの工程にまでこだわった試みができました。顔料プリントで製作する中で、服を作る背景でも環境配慮できることはたくさんあると実感できたので、消費者にとってもサステナブルな商品の在り方に向き合うきっかけにできればと考えています。

そして、将来的には、製作過程までサステナブルな製品が特別なものではなく、当たり前になってほしいという思いを持っています。環境に配慮されているから買う、というわけではなく、ただ「可愛い」と思って手に取ったアイテムが、当然のようにエシカルな素材や環境に配慮された工程で作られている、そんな未来が理想です。

そのためにも、他のアパレルブランドでも顔料プリントを取り入れてみてほしいです。弊社にも規模の大きなブランドや、若い層にむけたブランドもあるので、多様なアパレルブランドが顔料プリントでの製作を企画してもらえると、業界全体に広がっていくのではないかと思います。

(浜田様) 顔料プリントの普及という点では、カーテンやクッションカバーといったファブリック製品の資材に取り入れることで、より早く世の中に浸透するのではないかと考えています。Monna Lisa ML-8000を導入後、お客様からの顔料プリントのお問合せも増えており、業界全体で環境配慮を考える時代だと実感しています。一方で、デジタルプリントによる環境配慮や作業の効率化を非常に重要なこととして捉えながらも、他社との差別化をどう図るかといった課題も残っています。今後、他社にはない特別な価値を創出できるよう、顔料の特性を活かした商品の自社開発を進め、混紡素材や薄い生地、高密度な生地など、染料で染めにくく、顔料でプリントしやすい素材にチャレンジしていきたいです。堅牢度を向上させるための工夫など、エプソンの今後の展開にも期待しています。

※ セイコーエプソンがフルハシ環境総合研究所に委託調査した「デジタル捺染の直接投入水量報告書 2024 年 1 月」における、アナログ染料プリントと Monna Lisa 顔料プリントのプロセス比較より、巾1.5mかつ300mの織物を捺染する場合の直接投入水量、使用環境や測定条件などによりこの数値は変動します。

エプソン デジタル捺染機 Monna Lisa に関するお問い合わせ

デジタル捺染機の情報はこちら

monna-lisa.jp

製品のお求め、ご相談はデジタル捺染機専用のお問い合わせフォームよりお願いします。

epson.jp/monnalisa/contact/



導入ご検討のお客様向けの導入事例閲覧サイトはこちら

<https://www.epson.jp/products/textile/casestudy/>

